



宮私幼だより

第157号 令和5年3月31日

大河原カトリック幼稚園



巻頭言

理事長 鎌田文恵

爽やかな風が吹き、春を感じる頃となりました。

昨年を振り返ってみますと、数年来のコロナ禍の影響で日常生活は勿論、園児を取り巻く環境は大きく変わり、園の行事や日々の保育にいままでにない気遣いと心くばりが必要になりました。幼児教育に携わっている関係各位の皆様には心より慰労と感謝を申し上げます。

さて、一昨年の福岡での通園バス内に園児を置き去りにした事故に続き、静岡県でも悲しい事故が起きてしまいました。亡くなられたお子様に衷心よりご冥福をお祈りし、ご親族の皆様には哀悼の意を捧げる次第です。

幼児教育に携わっている我々関係者は保護者にとって安心して保育のできる施設でなければならない所であり、新聞等の報道によるこの事故は、私たちにとって常識では考えられない出来事です。特にコロナ禍での通園バス運行ですので、園児の降車後必ず車内を消毒、次の運行に備えているので、園児が車内にとり残されているなど考えられない事故でした。

事故後には、行政からの指導や安全運行マニュアル等の提出を求められましたが、マニュアルがあるから安心ではなく、それを実行することが何よりも大切だと考えます。幼児の教育・保育に携わっている皆様、降車時の安全装置の義務化が法律で定められるとのことですが、安全装置があるからではなく、乗降車時の点呼、確認の原則をもう一度再徹底し安全運行をお願いする次第です。

最後に宮私幼の現状は、保育所との関わりと合わせ、少子化が進行、従い運営費が大きく減少し大変な時期を迎えつつあります。しかし、会員の皆様のご理解とご協力により、仙私幼と宮私幼の研修を一部合同で行い、経費削減に努めています。また、合同研修会も研修担当の先生方のご尽力により少しずつ軌道にのってまいりました。更には教職員、保育士不足を補うための無料職業紹介所の許可を3月1日に取得いたしました。認可を経て運営するにあたっては、会員皆様の情報や広報が大切になりますので、今後なお一層のご協力をお願い申し上げます、ご挨拶といたします。令和5年度も変わらぬご協力ご支援をお願い申し上げます。

Close Up 理事会

令和4年度 宮私幼理事会の概要 (10月～3月)

【令和4年度 第7回理事会】

日時 令和4年12月15日(木) 午後2時～

場所 宮私幼会議室

議事

- (1)令和6年度全日本私立幼稚園第38回東北地区私立幼稚園教員研修大会〈宮城大会〉について
- (2)宮私幼教育研究発表大会について
- (3)無料職業紹介所の進捗状況について
- (4)8月～11月迄の各委員会等の事業報告について

報告事項

- ア.三部会のアンケート報告
- イ.園児募集について
- ウ.令和4年度東北造形教育研究大会(宮城大会)について
- エ.東北地区経営・研究と政策・総務担当者連絡会議の報告について
- オ.仙台リゾート&スポーツ専門学校からの学内セミナー講師依頼について

【令和4年度 第8回理事会】

日時 令和5年2月16日(木) 午後2時～

場所 宮私幼会議室

議事

- (1)令和4年度第2回定時総会議案書について
- (2)第2回定時総会の議長、議事録署名人及び司会者について
- (3)宮城県総合教育センターとの「令和5年度の研修事業に係る連携及び協力に関する覚書」について
- (4)みどりご園からの退会届について

報告事項

- ア.就職内定学生実習期間の傷害保険の申し込み状況について
- イ.宮私幼教育研究発表大会 3月23日(木)の役割分担について
- ウ.第13回全国都道府県政策担当者会議 1月23日(月)の報告
- エ.令和4年度政令指定都市特別委員会研修会 2月2日(木)の報告
- オ.東北地区教研大会(公開保育)のメリット・デメリットについて

〈宮城県知事・宮城県議会議長への陳情〉

1月30日(月)、村井嘉浩宮城県知事と菊地敬一宮城県議会議長を表敬訪問し、それぞれに要望書を手渡しました。陳情には、宮私幼より鎌田文恵理事長他4名、宮私幼PTAより佐々木幸士会長他7名が同行し、和やかな雰囲気で行われました。要望1、3については、全国知事会で提案したいと頼もしいお答えをいただきました。



- 要望1** 私立幼稚園特別支援教育教育費補助金に係る申請緩和と単価引き上げ
- 要望2** 教員の人材育成と人材確保のための支援
- 要望3** 教職員の処遇改善
- 要望4** 施設類型にかかわらず、全ての市町村において格差のない取り組みを進める
- 要望5** エネルギー高騰対策に関する支援の継続
- 要望6** 通園バスの置き去り防止装置義務化を踏まえた全額の公費負担
- 要望7** 新型コロナウイルス感染症対策に関する支援の継続
- 要望8** 私立学校運営費補助金について継続した支援

事務局だより

令和4年度 下半期 (10月～3月)

○関係機関団体

- 2/1 教育振興審議会(県行政庁舎)

○全日私幼連

- 10/6～8 東北地区私立幼稚園教員研修大会<山形大会>
- 10/14 102条園研究会議〔リモート〕
- 10/24 設置者・園長全国研修大会<長崎大会>〔ハイブリッド形式〕
- 11/18 東北地区経営研究担当者連絡協議会、政策総務担当者連絡協議会(秋田)
- 12/9 PTA連合会全国大会(東京)
- 12/16 団体長会・理事会合同会議(東京)
- 1/23 都道府県政策担当者会議(東京)
- 2/2 政令指定都市特別委員会研修会(東京)
- 2/6 団体長会・理事会合同会議(東京)
- 2/13 後継者育成研修会(東京)
- 2/17 第2回東北地区会・団体長会議及び事務局長会議(秋田)
- 3/2 全国教育研究事務局担当者会議(東京)
- 3/3 団体長会・理事会合同会議(東京)

○宮私幼のあゆみ

- 10/11 研究委員会(仙私幼会議室)
- 10/13 総務・給付委員会
- 10/18 研究委員会〔ハイブリッド形式〕
- 10/20 宮城県私立幼稚園・認定こども園教育振興大会(仙台市民会館) 宮城県私立幼稚園・認定こども園PTA研修大会(〃)
- 10/24 幼稚園・認定こども園・保育園部会合同会議
- 10/28 東北造形教育研究大会宮城大会(日立システムズホール)
- 11/10 総務・給付委員会
- 11/11 幼稚園・認定こども園・保育園部会合同会議
- 11/15 設置者・園長研修会〔宮城県民会館/ハイブリッド形式〕
- 11/16～12/2 宮城県造形教育作品展(WEB展)
- 11/17 常任理事会
- 11/22 研究委員会(宮私幼会議室&仙私幼会議室)
- 11/30 東北造形教育研究大会宮城大会実行委員会(仙台市教育センター)
- 12/1 研究委員会〔リモート〕
- 12/5 幼稚園・認定こども園・保育園部会合同会議
- 12/7 研究委員会、地区研修担当者連絡会、教育研究発表大会事例発表者打合せ〔リモート〕
- 12/8 総務・給付委員会
- 12/12 研究委員会
- 12/15 理事会
- 1/11 経営委員会
- 1/12 総務・給付委員会
- 1/17 知事陳情打合せ
- 1/19 地区長会
- 1/24 幼稚園・認定こども園・保育園部会合同会議
- 1/25 研究委員会〔ハイブリッド形式〕
- 1/30 知事・議長陳情
- 2/9 総務・給付委員会
- 2/15 常任理事会&総務・給付委員会合同会議
- 2/16 広報委員会&理事会
- 2/27 第2回定時総会、設置者・園長研修会・各施設別部会相談会(宮城県民会館)
- 2/28 研究委員会〔ハイブリッド形式〕、教育研究発表大会担当者事前打合せ〔リモート〕
- 3/8 研究委員会
- 3/9 総務・給付委員会
- 3/23 教育研究発表大会〔ハイブリッド形式〕

令和4年度 宮城県私立幼稚園・認定こども園教育振興大会 / 宮城県私立幼稚園・認定こども園PTA研修大会

大会スローガン 「次代を担う子どものために」

日時 令和4年10月20日(木) 会場 トークネットホール(仙台市民会館大ホール)

第1部 振興大会

1. 開会のことば(根來興宣副理事長):過去の歴史を創った人々のお蔭で今日の私たちがあり、振興大会もこれまでの積み重ねがあって、今の私立幼稚園があります。

2. あいさつ(鎌田文恵理事長):静岡の通園バスで園児が亡くなるという痛ましい事故があり、宮私幼でもマニュアルを各園に配布したが、マニュアルがあれば大丈夫というわけではなく、自分の



目で確かめることが大切なので、気を引きしめてやっていかなければならない。円安・物価高騰の状況の中で、幼稚園・認定こども園運営はますます厳しい状況にあるので、物心両面での支援をお願いしたい。

あいさつ(佐々木幸士PTA会長):ようやくコロナウイルスも制御可能となった。子どもにとって、一瞬一瞬が重要なので宮城県全体で幼児教育を支えていく。県知事と「幼児教育懇談会」を開いた。8,000万円のupで、9月の補正予算を組み、これにより、園児一人あたり6,000円の補助金を手当てできた。

3. 祝辞(村井嘉浩宮城県知事)池田副知事代読:三年ぶりの開催を喜ぶ。3年続けて幼稚園園児の安全が脅かされる事件があった。全ての子どもの健やかな成長こそ県政の大きな課題である。社会全体で幼児教育を支えていく。幼稚園の無償化、必要な情報の発信などをしていきたい。最後に、連合会の発展を願う。



祝辞(菊地敬一宮城県議会議長):幼児期は、人間形成の重要な時期なので、家庭・幼稚園が連携して多くの課題に取り組んでいかなければならない。本日のような幼稚園・保護者・地域の集まりは心強い。県においても、幼児教育のために全力を尽くしていきたい。

4. 来賓紹介(横澤行夫PTA副会長)

5. 大会宣言(山田元常任理事、渡辺陽子PTA監事)

私たちは、次代を担う子どもたちが心豊かな人間として成長することを願い、子どもたちにとっての最善の利益を実現するため、家庭教育の向上、幼児教育の振興を図ることを目的として、子どもたちがはじめて出会う学校である私立幼稚園・認定こども園と手を携え、常に努力することを宣言します。

一、子どもたちの教育の原点が、家庭にあることを再認識し、家族が協力し合って絆を深め、家庭が子どもにとって最も安心でき、共に学び合える場となるよう努めます。

一、幼児教育の質の向上を図るため、私立幼稚園・認定こども園への公的助成、並びに教職員の待遇改善に努めます。

一、かけがえのない存在である一人一人の子どもたちがさらに輝くよう、お互いを思いやる寛容の心を持ちながら、日々の生活や幼稚園の中で安心して過ごすことができるよう努めます。

閉会のことば(庄司昭博副理事長):来賓の方々にご臨席いただき、ありがとうございました。県内の少子化が進んでいる。地域の光は地域の子どもたちだと思う。子どもたちが元気に育つ姿こそが、明るい光だと思う。これからも大切にしていきたい。



第2部 研修大会

講演 「子どもの育ち」について考える

講師 大宮勇雄先生

(福島大学名誉教授・仙台大学体育学部元教授)

私は、子どもが3人、孫が7人おり、大分前に子育ては終わった。思い起こすと、小学校入学までの子育ては、病気やけがなどの世話をして大変だったが、前向きの子どもたちと一緒にあって過ごし楽しかった。3人の子育て15年間は、アツという間で、もっと楽しめば良かった。子育ては、上の子がこうだから、下の子ども…とはならず、それぞれの子どもに応じてだから、親は全てが新しい経験である。子育てで大切なことは、次の三点である。①どんな人間に育てたいのか。親としての責任感で、どのようなことを大事にしたいか。子どもは育てたいようには育たない、育てたように育つ。周囲から信頼される人とは、どんな力を持った人か。知識・経験のある人、しかも優しい人、人を理解し、日々学んでいる人、謙虚な人。人から学び成長できる。自分にできないことを周囲の人の力を借りてできる。学ぶ力は大人になるほど大事である。②学ぶ力とはどういうものか。学力テストは、知識・スキル・能力が多い方が次の段階に進める。学びが挫折すると続かなくなり、壁にぶつかる。壁を乗り越える力、意欲が重要となる。学びは継続的にすることで伸びる。4歳児のパズルの実験を行ったところ、1度目にできたパズルを選ぶ子どもとできなかったパズルを選ぶ子どもが半々だった。前者は結果志向で、できると評価されたい、後者は学び志向で、難しいことをやるのが面白い、困難に立ち向かうことは学ぶ意欲に通じる。1歳児は、難しいこととわからずにやる。4歳児は、学ぶ志向が旺盛な子どもと小さな失敗をしてはいけないと思っている結果志向の子どもに分かれる。大人が結果だけを見て評価するのは良くない。何でできないのか、難しいからどうしようかと一緒に考える。難しいことをあきらめずにやる、面白いことをみつける、引っかかることに自分から挑戦する。③サカナくんは、本人の好きなこと(魚)を親が認めてやらせてきた。子どもの学ぶ意欲を大人が認めることが大切。大人が評価しないものは消える。幼児期は、大人が助けて難しいことにチャレンジする。

閉会の言葉(横澤行夫PTA副会長):大宮先生に学ぶ意欲の大切さを教えていただいた。最後までご清聴いただきありがとうございました。園にもどってこれからの子育てに活かしてください。

令和4年度 設置者・園長研修会 『少子化社会の中での園経営について』

講師 全日本私立幼稚園連合会 政策委員長 水谷 豊三

日時 令和4年11月15日(火) 会場 宮城県民会館6階601号室 参加者数:会場66名 オンライン20名 計86名

開会挨拶 (鎌田 文恵 理事長)

本日は宮私幼と仙私幼との合同研修です。昨年度よりコロナ禍の影響もあり園児が減っています。これから益々厳しい状況になる中、仙私幼・宮私幼手を携え経費を抑えながら事業を進めることが大事ではないでしょうか。昔から不易流行と言いますが、幼児教育の基本、変えてはならないことを考え直す良い機会としたいです。

講演 (水谷 豊三 氏)

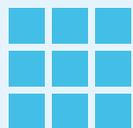
これからは人口減の地方が幼児教育の先進地域となります。教育・保育・子育て支援の3本柱のうち、子育て支援に力を入れていくことが重要になります。今後行政への働きかけはロビー活動ではなくデータを重視し、現場の状況を把握しながら訴えることが大切です。◆退職手当:宮城県は健全です。◆処遇改善:給与最低賃金の上昇に追いつかない状況です。人件費比率がアップし教育の質が上げられません。来年度からキャリアアップが必須となります。◆園舎:私学助成園は施設整備できにくいですが、いぶし銀のような想い



出残る園舎を整備するにはメンテナンスは必要です。◆特別支援・保育困難:母集団が大事。行政との連携を得て園が条件を設定し、保護者が入園を決めます。すべて一緒が平等ではありません。◆分業化:保育業界は分業化が進んでいません。行政の支援策をうまく利用すべきです。◆三歳未満児保育事業:保育所は子育て支援メニュー充実。親子で寄り添える居場所づくりを私立幼稚園でも力を入れるべき◆振興活動:行政とケンカをしないこと。特に課長を大事にし、保育団体・PTAの力も借りましょう。

閉会挨拶 (菊池 正隆 仙私幼会長)

今後も合同での研修を行っていきましょう。



令和4年度 第2回総会・宮私幼設置者・園長研修会

日時 令和5年2月27日(月) 午後1時30分 会場 東京エレクトロンホール601会議

(司会:清野 英俊 総務・給付委員長)

総会に先立ち、ご逝去された大沢幼稚園前園長 庄子 いと子先生に黙祷を捧げました。

開会のことば:根来 興宣 副理事長

理事長挨拶:鎌田 文恵 理事長

来賓祝辞:宮城県総務部 私学・公益法人課 部副参事 石川 俊樹 様と宮城県議会議員 宮城県私立幼稚園PTA連合会会長 佐々木 幸士 様よりいただきました。

<議事>

議長 (泉地区)第二向陽台幼稚園 菊地 正也 先生、(仙南地区)第二たんぼ幼稚園 伊藤 誠 先生、議事録署名:(泉地区)幼保連携型認定こども園 泉の杜幼稚園 菊池 正隆先生、(名取・岩沼地区)岩沼さくら幼稚園 檀崎真扶先生

第1号議案:令和4年度一般会計収支補正予算(案)及び退職手当資金給付事業特別会計収支補正予算(案)について、第2号議案:令和5年度事業計画(案)について、第3号議案:令和5年度一般会計収支予算(案)及び退職手当資金給付事業特別会計収支予算(案)について…審議の結果、異議なく可決されました。

<報告事項>

(1)宮城県総合教育センターとの研修事業に係る連携について:教育推進部 本田 結城子 氏

(2)東北地区私立幼稚園教員研修大会<宮城大会>に向けて

<その他>

(1)令和6年度園児募集の日程等について:従来通りとする。

閉会のことば: 庄司 昭博 副理事長

<設置者・園長研修会>

司会:山田 元郎 経営委員長

研修:宮城県総務部 私学・公益法人課 学事班長 熊谷 祥様 「私立学校法の改正について」研修をおこなっていただきました。

①私立学校法改正について

②文部科学省説明資料

③<様式例>理事会議事録

④<様式例>評議員会議事録の資料を使って今後の私立学校法の改正についてとてもわかりやすく丁寧に講義をしてくださいました。



令和4年度 宮私幼教育研究発表大会

大会テーマ

「幼児教育の充実を図る」～子どもに寄り添う保育～

日時 令和5年3月23日(木) 会場 トークネットホール仙台(仙台市民会館大ホール) 及びZoomによるハイブリッド方式

<開会行事>

(1)開会のことば(庄司 昭博 副理事長)

東日本大震災で大きな被害を受けたあさひ幼稚園が苦境を乗り越えて、園児たちが新しい園舎で元気に遊んでいる様子をTVで拝見しました。地域の要請に、より良い幼児教育を提供し、地域に還元することが大事です。



(2)東北造形教育・宮城大会報告(エコールノール幼稚園 佐々木 拓真 園長)

10月28日に、研究発表(想画)を行いました。(地下展示室に作品展示) 有意義な異校種間の交流でした。

<事例発表 テーマ「子どもに寄り添う保育」>

第1部

①幼保連携型認定こども園塩釜聖光幼稚園(梅森 玲 先生)

「子どもと保護者、保育者が共に楽しみながら育つ保育」

②認定こども園やかまし村(須藤 真由 先生)

「子どもの主体性を育むための保育者の援助とは」

講評(わかかさ幼稚園 八島 均 園長先生)

塩釜聖光幼稚園は、YouTube動画の配信内容を工夫して、実際に親子が触れ合えるような具体的な内容で製作やダンスなどの親子の活動が子どもたちの気持ちの安定につながった。あえて一歩踏み込み、親を保育に取り込んでいる。やかまし村は、子どもの思考力、自立心、感性が育まれるように「10の姿」を十分に意識して活動を展開している。特に、根っこ掘りの失敗体験は成長にとって重要です。

第2部

③穀町幼稚園(横山 真琴 先生)

「言葉で伝え合う力を育む」～心を動かされる体験を通して～

④岩沼南こばと幼稚園(小林 未来 先生)

「子どもの豊かな感性や表現力を育む保育実践」

講評(認定こども園福聚幼稚園・ふくじゅ保育園 関 澄子 園長先生)

穀町幼稚園は、園全体で共通理解をして各学年独自のねらいで、イメージを捉えながら新たな発見をしています。岩沼南こばと幼稚園は、発達を踏まえ、思いを伝えたいという子どもをより適切に援助している。小さな行動を敏感に感じ取り、安心して表現できる環境を作っています。

<講演会>

「子どもの発達とメディアとの正しい付き合い方」

～豊かな人生を送れる子どもにするために私たちができること～

講師 東北大学病院小児科医師 植松 有里佳

子どもの治療と親の子育て支援をする「発達支援外来」をしています。「人と関わる楽しみや喜びを感じられる人に育てること」と「早寝早起きの習慣をつけること」は、保護者から子どもへの贈

り物になります。乳幼児期の関わりは、その後の人生を大きく左右することです。自閉症の疑いで受診する子どもの半分は、自閉症ではなくメディアや親子関係によるものです。一日中テレビメディアを見ていることによって起きる愛着障害であることが多いです。メディアの視聴を止めるよう指示するのではなく、親子で身体を使った遊びをもっとしてほしいと伝えます。大事なのは「睡眠」です。ゲーム依存になるのは、人に安心して依存できないからなので、人と遊ぶ時間が増えれば自然とゲームや動画視聴が減っていきます。スマホの見過ぎは「急性内斜視」を引き起こし、手術が必要な場合もあります。宮城県として、早寝早起き・朝ごはんと適正なメディア視聴の二つができなければ、学力向上にはつながらず、不登校も引き起こします。この対策をすることが未来を変えることとなります。保護者向けのパンフレットは3種類あるので、配り方に工夫をしていただけるといいです。



<閉会行事>



挨拶(鎌田 文恵 理事長)

文科省からの通達でマスクをはずしても大丈夫という時期になりましたが、はずすのが恥ずかしいという声もあるようで、コロナ前後で考え方が大きく変わりました。先生の表情が子どもたちに見えることが大事なので、マスクをはずして保育できるよう健康に留意して生活して欲しいです。また、宮私幼事務局で履歴書を預かり仕事を斡旋できる無料職業紹介所の資格を取ったのでご利用ください。永年勤続表彰(八木山カトリック幼稚園 奈須川 志穂 先生謝辞)

10年を振り返り、親元を離れて働いていること、周りの人たちに助けられ社会人として育てられていること、子どもたちと過ごす中で学びに感謝の気持ちでいっぱいです。

来賓祝辞(村井 嘉浩 知事、私学・公益法人課石川副参事代読)

3月13日よりマスク着用は任意となり、5月8日より新型コロナウイルス感染症が5類に移行されますが、引き続き対応をよろしくお願ひします。必要な情報を提供します。本日の学びを各園の保育に活かし、幼児教育のさらなる発展にご尽力ください。

閉会のことば(根来 興宣 副理事長)



事例発表の後ろには、たくさん先生方の尽力があります。何気なくやっていることの意味を探り、何事も共に熱意を掛け合う姿勢が今後の幼児教育に繋がることと思います。



幼稚園訪問記

幼な子とともに

大河原カトリック幼稚園

〒989-1241 柴田郡大河原町字町 22
園児数124名 教職員13名
(3歳児35名、4歳児44名、5歳児45名)

大河原カトリック幼稚園 を訪問しました!!

令和5年1月31日(火)、大河原カトリック幼稚園を訪問しました。園児たちは、前の週に降った雪がわずかに残る園庭で雪うさぎを作ったり、氷を探したり、凧をあげて遊んでいました。園児たちを優しいまなざしで見守る高橋美貴園長先生からお話をうかがいました。



1. 概要

昭和28年(1953年):大河原カトリック教会と同じ敷地に設立
昭和60年(1985年):宗教法人から学校法人に移行
平成31年(2019年):施設給付型幼稚園に移行(70年の歩みを重ねる)

2. 特色

キリスト教・カトリック精神に基づき、日々の生活の中で手を合わせて祈る習慣を身につけ、感謝する心、周りの人を思いやる心、平和を願う心を育てるよう、宗教的情操教育に努めています。特に子どもたち一人ひとりが神さまにいただいた「いのち」を大切に、感謝する心を日々の生活の中で育てたいと願っています。



3. 育てたい幼児像

- 神と人を大切にする子ども
- 心も体も健康で明るい子ども
- 思いやりと感謝の心を持つ子ども
- 主体性のある子ども
- 創造性豊かな子ども

4. 特に力を入れている教育

- “感謝する心”を子どもたちが持てるように保育者自身も「ありがとう」の気持ちを持って保育するよう心がけています。また、月に1回、御聖堂(教会)で、宗教保育を行い、神さまを身近に感じながらお祈りをおささげしています。
- 季節の行事や活動では、集団で味わう楽しさや喜びを体

験し、“がんばる心”“最後までやり抜くあきらめない心”“励まし合う心”など、心の成長を願いつつ保育を行っています。

- 専門の指導者のもと、体を動かして活動する楽しさを体感する“体操教室”“スイミング教室”も、子どもたちが喜んで参加しています。

5. 保育時間

月曜日～金曜日 9時～13時30分

6. 預かり保育等

月曜日～金曜日 保育終了後～17時30分

7. 給食

お弁当持参、牛乳のみ(毎日)

8. 未就園児教室

行なっていません



9. バス送迎

バス1台3コース運行(バス送迎希望の園児対象)

10. 新型コロナウイルスへの対応

- 基本対応として、手洗い、手指消毒、マスク着用(園児は着用努力、保護者の意向に対応)毎日の体温カード記入。環境整備は、園舎内、おもちゃ等、バス内消毒作業を行っています。保育室内の換気や空気清浄機、加湿器も使用しています。昼食時は、パーテーションを使用しています。
- 園行事は、保護者の皆様にご理解とご協力をいただき、日程の延期や分散、参加人数の制限をして、極力、実施してきました。運動会では、学年毎の開催でしたが、マスクをはずして行い、子どもたちの笑顔や様々な表情を保護者の方に見ていただくことができました。
- 三年間と長い年月、保護者の方々のご理解と子どもたちの頑張り、元気な笑顔に助けられながら、乗り越えてこられた思いで、感謝の気持ちでいっぱいです。

